

山 郡 市議団週報



No.118

23. 5. 25

日本共産党
郡山市議団
郡山市深沢2
丁目 10-12

☎922-3801

☎932-1903

軍拡大増税・原発回帰ストップ！

悪政から住民生活を守る共産党の躍進を

福島県は、東日本大震災の影響で、全国の一斉地方選からは遅れて地方選挙が行われます。7月に本宮市、福島市、白河市、会津若松市で、8月に大玉村、郡山市、須賀川市などで、そして、最後に11月に県議会議員選挙がたたかわれます。

4月の一斉地方選で維新の会が躍進しましたが、その後の国会では、自公両党に維新、国民が加わる4党連合による悪政推進が加速しています。地方選の結果は、その地方だけの問題ではなく、国政にも大きな影響をもたらすことを、マイナスの形で維新の例は示したのではないでしょうが。

今、岸田政権による軍拡大増税、社会保障破壊、

原発回帰が急速に進められています。この悪政の強行に、ノーの国民世論を示すことが、福島県でこれから行われる地方選の最大の意義ではないでしょうか。

郡山市議選、共産党は2人の立候補！

も一つ一つの争点が、地方自治に広がる新自由主義的政策を、市民生活応援の政治に転換させることです。8月の郡山市議選に共産党市議団は、現職の岡田市議、新人の遠藤隆候補の2名が立候補を予定しています。現職の高橋市議は、健康面を考慮し、立候補を辞退しました。市民アンケートに示された市民要求を実現させるため、頑張ります。(写真右は遠藤たかしさん、左は山添拓議員)



G7 広島サミットが世界に示したもの

22日(月)、しんぶん赤旗3面では、G7 広島サミットで各国のメディアとNGOがどのような扱いを受けたのかを報じていた。メディアに対しては、巨大なメディアセンターが設置され、「常時軽食と朝昼晩の豪華バイキングが用意。日本酒の『おもてなしコーナー』まで」。一方、世界各国のNGOは、メディアセンターから徒歩約5分、「少し古びた小さい公民館に押し込められ、発信を余儀なくされ」「公民館には、水さえ置かれ」なかった(今年のドイツG7サミットでは、記者とNGOが同じスペースで作業をしていた)。ある国際NGOスタッフは、「国際水準からみてありえない」と怒ったとのこと。このNGOを敵視するかのよう扱いをしたことに、広島サミットの本質が表れている。岸田首相が「核廃絶に焦点をあてた歴史的文書」と自画自賛した19日発表の「広島ビジョン」でさえ、自分たちの核兵器は「防衛目的のために役割を果たす」と核抑止力論の正当性を主張したもの。翌20日の首脳宣言では、原発の耐用年数延長や新設、アルプス処理水の海洋放出も容認した。岸田政権は、自分たちの悪政に世界からお墨付きを得たつもりだろうが、世界からみれば、広島、長崎、ビキニの3度の被爆と福島原発事故という未曾有の大災害からさえ何も学ばない国民だということが明らかになり、国際的な日本への信頼を地に落としたともいえるだろう。

岸田政権は、今、日本の軍事大国化の道を歩み、民主主義の圧殺も急速に進めている。アルプス処理水の海洋放出も、消費税インボイス制度の導入も既定の方針だし、今、国会で大問題となっている5大悪法案も強行の構えだ。物価高騰に苦しむ国民をよそに6月からの電気料金引き上げも了承した。悪政しか行えない政権を交代させるのは、民主政治の常道ではないのか。「悪夢の民主党政権」などという安倍元首相の詐術に乗せられ、何があっても現政権擁護では国民主権が泣くのではないか。